

何を見る？

みなさんの活動の様子を見に行った時、同時に授業の様子もよく見させていただいています。SPさんは、活動の時に授業をたくさん見ることができていると思いますが、その時、何を意識して見ているか？目の前の子どもたちに一生懸命向き合ってくれていると、なかなかじっくり授業を見たり考えたりする時間はないかもしれません。ですが、せっかくですから授業についても何か一つ、「今日はここを意識して見よう」と決めて活動に取り組んでみるのもよいかもしれません。教育実習以上に、普段の子どもたち、普段の学校、普段の授業を見られることがSP活動の良さです。どこをどう見たらよいのか分からない人は、まずは学習指導要領の解説をよく読んでみることをおすすめします。授業には、毎回“ねらい”があります。その“ねらい”が何なのか、“ねらい”を達成するために先生方がどんな指導をされているのか、考えるきっかけになると思います。また、その“ねらい”を知っておくと、「自分ならどう授業をしよう」と考えることもできるでしょう。（これを考えるのが楽しいですね。）じっくり考える時間がある大学生の時だからこそできる、最高の学びの時間ではないでしょうか。



←片葩小 瀬瀬 SP・森 SP

二人で5年生の家庭科(ミシン)の授業に入っていました。例年、ミシンの授業では、「下糸がでない!」「絡まった!」などの声が飛び交い、子どもたちはてんやわんや。大人の目があると“安全・安心”にも繋がりますし、一人でも多くの手があると助かる瞬間も多いように思います。

瀬瀬SPは4年生。教室を広く見渡して声をかけていました。子どもたちのことを考えてのことでしょう。手を出しすぎない支援がさすがでした。そこに居るだけで場を明るく、柔らかな雰囲気してくれる瀬瀬SP。安定感も抜群です。



森SPはなんと1年生。しかも、遠方から1時間半かけて片葩小に来ています。きっと何か魅力を感じて通ってくれていると思うのですが、1年生にも関わらずその熱量がすごい!こうしたエネルギーのあるSPさんに支えられています。「教科書見てみよう!」と言って、「こうかな?ここじゃない?」と言いながら子どもと一緒に考えていました。“一緒に”やってくれる、考えてくれる人が子どもたちは大好き。子どもたちのSPさんへの信頼は、こうした一生懸命な姿から生まれるのかもしれません。